

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00443

研究課題名(和文) 中世フランス語版『テンプル騎士団会則』の言語地理学的・文献学的語彙研究

研究課題名(英文) Philological and Dialectological Studies on the Vocabulary of the Regle du Temple de Jerusalem

研究代表者

松村 剛 (MATSUMURA, Takeshi)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：00229535

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、1260年頃に聖地で作成された中世フランス語版『テンプル騎士団会則』の語彙を、パリのフランス国立図書館に所蔵されているフランス語写本第1977番と、Henri de Curzon が1886年に出版した近代版と Giovanni Amatuuccio が2009年に上梓した近代版とを比較しながら検討した。刊本と各種辞書の記述の誤りを修正しつつ、このテキストがフランス語史と言語地理学にとって興味深い多くの単語を含んでいることだけでなく、聖地に特有の語彙をもつことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究においては、1260年頃に聖地で作成された中世フランス語版『テンプル騎士団会則』の語彙を、パリのフランス国立図書館に所蔵されているフランス語写本第1977番と、Henri de Curzon が1886年に出版した近代版と Giovanni Amatuuccio が2009年に上梓した近代版とを比較しながら検討した。従来、語彙研究の観点からは綿密な調査の対象になっていなかったこの作品を研究する過程で、刊本と各種辞書に見られる誤謬を修正し、フランス語史と言語地理学の観点から重要な意義をもつ用例を発見することができた。

研究成果の概要(英文)：With this grant-in-aid for scientific research, I studied the vocabulary of the old french "Regle du Temple de Jerusalem" composed c. 1260 in the Holy Land and published by Henri de Curzon (La Regle du Temple, Paris, Renouard, 1886, Societe de l'Histoire de France) and Giovanni Amatuuccio (Il Corpus normativo templare. Edizione dei testi romanzi con traduzione e commento in italiano, Galatina, Congedo Editore, 2009). I compared the publications with the manuscript Fonds Francais 1977 of the Bibliotheque nationale de France (Paris), and observed that the modern editions and dictionaries have diverse shortcomings. At the same time, I certified that this text contains numeros words of great interest for the histori of the french language and the geographical linguistics and various words characteristic of the Holy Land.

研究分野：人文学

キーワード：中世フランス語 フランス語史 語彙論 文献学 言語地理学

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、平成 27・28・29 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C)(一般))「中世フランス語版キケロ『修辞学』の言語地理学的・文献学的語彙研究」(課題番号 15K02375)において松村が挙げた成果を継承しつつ、中世フランス語版『テンプル騎士団会則』(*Règle du Temple de Jérusalem*)を対象にして研究を推進するものとして開始された。それまでの3年間の研究は、1282年にアッコでジャン・ダンティオッシュ(Jean d'Antioche)がラテン語によるキケロ『発想論』(*De Inventione*)と偽キケロ『ヘレンニウス宛修辞学』(*Rhetorica ad Herennium*)の全体を中世フランス語に翻案した中世フランス語版キケロ『修辞学』(*Rectorique de Marc Tullies Cyceron*と呼ばれている)を取り上げ、2004年に Elisa Guadagnini が上梓した校訂版 *La Rectorique de Cyceron tradotta da Jean d'Antioche. Edizione e glossario* (Pisa, Edizioni della Normale)を、底本となったシャンティイ、コンデ博物館、第433番写本との照合によって訂正しつつ、この作品の語彙をフランス語史ならびに言語地理学的な観点から網羅的に検討し、この観点から見ていかに重要な用例がそこに含まれているかを浮き彫りにすることができた。その成果は、松村がフランスで出版し、アカデミー・フランセーズから2016年に最高の賞であるフランス語圏大賞(Académie française, Grand prix de la Francophonie)を受けた単著『中世フランス語辞典』(*Dictionnaire du français médiéval*, Paris, Les Belles Lettres, 2015, x + 3500 pages)の中に取り入れることができたほか、学術誌に論考を発表し、フランス語のテキストならびにフランス語史関連の研究書、辞書に関する文献学的な批判的読解の作業も進めてきた。

(2) 本研究で対象とする中世フランス語版『テンプル騎士団会則』の文献学的、言語地理学的研究はあまり進んでいない。たしかに1886年に Henri de Curzon がフランス歴史学会(Société de l'Histoire de France)の叢書として上梓した校訂版 *La Règle du Temple* (Paris, Renouard) は存在しており、また2009年には Giovanni Amatuccio がイタリア語の翻訳と注釈を添えた校訂版 *Il Corpus normativo templare. Edizione dei testi romanzi con traduzione e commento in italiano* (Galatina, Congedo Editore)を刊行したが、この2種のいずれにおいても『テンプル騎士団会則』の言語学的特徴については詳細な検討がなされていない。脚注においていくつかの語を翻訳しているにすぎず、この作品に含まれる語彙がフランス語の歴史と地理においていかなる意義をもつかという問題を意識すらしていない。本文の校訂自体もかならずしも信頼がおけるものにはなっていないというのが現状である。

(3) 聖地のフランス語研究に関しては、Laura Minervini が「Le français dans l'Orient latin (XIII^e-XIV^e siècles). Éléments pour la caractérisation d'une *scripta* du Levant », *Revue de Linguistique romane*, t. 74, 2010, p. 119-198 ; « Les emprunts arabes et grecs dans le lexique français d'Orient (XIII^e-XIV^e siècles) », *ibid.*, t. 76, 2012, p. 99-197 という2点の論考を発表しているが、『テンプル騎士団会則』全体の語彙論的な意義を明らかにしてはいない。

(4) 以上のような研究の現状であったがゆえに、文献学的手法に基づいて、フランス語史と言語地理学の観点から注目すべきこの『テンプル騎士団会則』の総合的な語彙研究を行なう必要性は大きいものであった。

2. 研究の目的

(1) 上記の通り、従来の研究に欠落していた要素を補完すべく、中世フランス語版『テンプル騎士団会則』(*Règle du Temple de Jérusalem*)に関して、その Henri de Curzon および Giovanni Amatuccio による校訂版(それぞれ1886年と2009年に出版された)と、その底本であるパリ、フランス国立図書館、フランス語写本第1977番を照合し、校訂版の不十分な箇所を修正しつつ、現在の文献学的な要請に応じた正確な校訂版を作成する作業を行なう。

(2) その過程で、このテキストに含まれた語彙の網羅的な研究を推進する。その際、言語地図と各種辞書を批判的に活用しつつ、用例の言語地理学的・フランス語史的な意義を明らかにする。F. Godefroy の10巻本『古フランス語辞典』(*Dictionnaire de l'ancienne langue française et de tous ses dialectes*)、A. Tobler et E. Lommatzsch の12巻本『古フランス語辞典』(*Altfranzösisches Wörterbuch*)、W. von Wartburg が創始した25巻本『フランス語語源辞典』(*Französisches Etymologisches Wörterbuch*)における中世フランス語版『テンプル騎士団会則』および関連作品の引用を検討し、間違いがあれば訂正しつつ、この作品が含む単語の初出に着目しながら、従来のフランス語史の記述を補完する要素を明示することを系統的な語彙集成の作成を通して行なう。

(3) ラテン語版の『テンプル騎士団会則』と中世フランス語版の『テンプル騎士団会則』を比較し、それぞれがどのような語彙を使用しているのかを網羅的に調査することによって、従来は中世末期の現象としてとらえられていた翻訳文学が実はより古い時代にすでに行なわれ始めて

いたことが明らかになり、それに応じた貴重な用例を発見することができるであろうし、地理的な観点からも、聖地に特有の語彙の検討を通して、中世フランス語研究の中でこれまで手薄であったこの地域の語彙研究の補完に貢献できるであろう。

(4) これらの検討を通して、『古フランス語語源辞典』 (*Dictionnaire étymologique de l'ancien français*) (ハイデルベルク大学) に多くの寄与をすることができるであろうし、部分的に改訂版を作成しつつある『フランス語語源辞典』 (*Französisches Etymologisches Wörterbuch*) (ナンシー、フランス国立国語研究所) の補足・修正にも役立つであろうし、『フランス語宝典』 (*Trésor de la langue française*) 語源項目の再検討をしている TLF-Etym および「幽霊語研究」 (*Base des Mots-Fantômes*) (同じくナンシー、フランス国立国語研究所) にも多数の貢献をすることができるであろうし、松村の単著『中世フランス語辞典』 (*Dictionnaire du français médiéval*, Paris, Les Belles Lettres, 2015) の増補改訂にも有益な成果が期待できる。

3. 研究の方法

(1) 上記の研究目的を達成すべく、中世フランス語版『テンプル騎士団会則』 (*Règle du Temple de Jérusalem*) に関して、パリのフランス国立図書館所蔵、フランス語写本第 1977 番と、Henri de Curzon がフランス歴史学会 (Société de l'Histoire de France) の叢書として 1886 年に上梓した校訂版 *La Règle du Temple* (Paris, Renouard) と、Giovanni Amatuccio がイタリア語の翻訳と注釈を添えて 2009 年に出版した校訂版 *Il Corpus normativo templare. Edizione dei testi romanzi con traduzione e commento in italiano* (Galatina, Congedo Editore) とを比較検討し、正確なテキストを確定する。

(2) 各種辞書における中世フランス語版『テンプル騎士団会則』の引用を再検討し、それらの解釈の妥当性を文献学的に調査し、間違いがあれば訂正してゆく。とくに、F. Godefroy の 10 巻本『古フランス語辞典』 (*Dictionnaire de l'ancienne langue française et de tous ses dialectes*)、A. Tobler et E. Lommatzsch の 12 巻本『古フランス語辞典』 (*Altfranzösisches Wörterbuch*)、W. von Wartburg が創始した 25 巻本『フランス語語源辞典』 (*Französisches Etymologisches Wörterbuch*) における引用および解釈を批判的に検討し、そこに見られる誤り、ないし不十分な記述の影響がどのように語彙研究、フランス語史研究に現れているかを文献学的に調査する。

(3) 中世フランス語版『テンプル騎士団会則』に含まれる、フランス語史と言語地理学の観点から見て注目すべき単語・表現を収集し、この作品の意義を裏付ける点を強調し、フランス語史および言語地理学における従来の知見を補完してゆく。

(4) 地方語の問題に関しては、言語地理学の成果を活用すべく、研究書、論文を調査する。その研究によって、中世フランス語版『テンプル騎士団会則』で使用されている聖地特有の語彙の特徴を浮き彫りにする。

(5) 関連するラテン語およびフランス語作品を収集し、それらを批判的に検討し、補足的な情報を収集する。

4. 研究成果

(1) 中世フランス語版『テンプル騎士団会則』 (*Règle du Temple de Jérusalem*) のテキストに関して、既存の 2 点の校訂版、すなわち Henri de Curzon によってフランス歴史学会 (Société de l'Histoire de France) の叢書として 1886 年に上梓された校訂版 *La Règle du Temple* (Paris, Renouard) および、Giovanni Amatuccio によってイタリア語の翻訳と注釈とともに 2009 年に出版された校訂版 *Il Corpus normativo templare. Edizione dei testi romanzi con traduzione e commento in italiano* (Galatina, Congedo Editore) と、底本であるパリのフランス国立図書館所蔵、フランス語写本第 1977 番とを比較した結果、正確にテキストを理解していない、あるいは十分に語彙の意義を強調していないと思われる箇所が見つかった。

(2) 中世フランス語版『テンプル騎士団会則』の語彙に関して、フランス語史と言語地理学の観点から重要な単語と表現を収集する作業を通して、従来の知見を刷新するような結果を出すことができた。その成果は、松村の単著『中世フランス語辞典』 (*Dictionnaire du français médiéval*, Paris, Les Belles Lettres, 2015) の増補改訂に役立ったほか、「Sur un mot fantôme dans *La Règle du Temple* : le cas de l'oïne », *Philologica Jassyensia*, t. 14, 2, 2018 で発表した。

(3) このように、フランス語史および言語地理学の観点から、従来の知見を補完する情報を収集できたことで、松村が校閲者として参加しているハイデルベルク大学の『古フランス語語源辞典』 (*Dictionnaire étymologique de l'ancien français*)、ナンシーのフランス国立国語研究所の『フランス語宝典』語源項目の再検討 (TLF-Etym) および「幽霊語研究」 (*Base des Mots-Fantômes*) にとって有益な用例を多数見つけることができ、今後のフランス語史研究の発展に意義のある成果と言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計35件（うち査読付論文 35件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 33件）

1. 著者名 松村剛	4. 巻 17
2. 論文標題 Remarques philologiques sur quelques passages de La Prisonniere	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松村剛	4. 巻 18
2. 論文標題 Quelques remarques philologiques sur le texte de Combray	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松村剛	4. 巻 19
2. 論文標題 Remarques philologiques sur quelques passages du Cote de Guermantes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松村剛	4. 巻 20
2. 論文標題 Remarques philologiques sur quelques passages de Sodome et Gomorrhe	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 21
2. 論文標題 Sur les mots se ramicher et decanicher dans Cesar Birotteau	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 57
2. 論文標題 Sous les marronniers en fleurs d' Henri Bachelin : quelques remarques lexicographiques	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 L' Horizon de pourpre	6. 最初と最後の頁 89-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 22
2. 論文標題 Sur deux lecons isolees des Jeunes France: exclusivement et inopinatement	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 23
2. 論文標題 Un mot medieval chez Theophile Gautier? La France la lovis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 24
2. 論文標題 Une noblesse sans privileges est un manche sans outil	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 31
2. 論文標題 Un regionalisme de La Fontaine : chuchillement	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Le Fablier	6. 最初と最後の頁 35-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 25
2. 論文標題 Fenelon lecteur de Malpighi	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 1
2. 論文標題 Sur une citation de Chateaubriand dans Le Pere Goriot	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 L'Annee balzacienne	6. 最初と最後の頁 458-463
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 26
2. 論文標題 Sur le mot acribie	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 5
2. 論文標題 Sur quelques mots des Memoires d' un protohistorien de Jean Guilaine	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 6
2. 論文標題 Sur Michael Screech, Terence et Joachim Du Bellay	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 7
2. 論文標題 Remarques lexicographiques sur Le Neveu de Rameau	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 9
2. 論文標題 Sur un passage du Quart Livre : Kazuo Watanabe et Michael Screech	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 10
2. 論文標題 Sur le coupeau d' oignon du prologue de Gargantua	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 11
2. 論文標題 Sous les marronniers en fleurs d' Henri Bachelin : quelques remarques lexicographiques	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 12
2. 論文標題 Sur le mot hastille chez Rabelais	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 13
2. 論文標題 Sur accabaner et encabaner chez Henri Bachelin et Jules Renard	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 147
2. 論文標題 Robert Brasillach et Philippe Soupault dans Fulgur	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin de l' Association des Amis de Robert Brasillach	6. 最初と最後の頁 24-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 14
2. 論文標題 Sur un mot fantome dans Artus de Bretagne : le plus maistre du jour	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 15
2. 論文標題 Sur le mot sabotee chez Romain Rolland	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 16
2. 論文標題 Pastiche et lexicographie : a propos d' un ouvrage recent	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 -
2. 論文標題 Regards sur la lexicographie du francais medieval a l'occasion d'un nouveau dictionnaire	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Annuaire du College de France 2015-2016	6. 最初と最後の頁 681-682
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 78
2. 論文標題 Le mot frivoliste a-t-il ete invente par Louis Sebastien Mercier ?	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 FRACAS	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 81
2. 論文標題 Sur le mot abacus chez Walther von Wartburg et Walter Scott	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 FRACAS	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 82
2. 論文標題 Une source du dictionnaire de Cotgrave : L'Asne d'or de Jean de Montlyard	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 FRACAS	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 83
2. 論文標題 L'Asne d'or de Jean de Montlyard : quelques remarques lexicographiques	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 FRACAS	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 24
2. 論文標題 Sur un mot fantome dans La Regle du Temple : le cas de l'oine	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Philologica Jassyensia	6. 最初と最後の頁 119-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 1
2. 論文標題 Sur un mot fantome chez Bussy-Rabutin : le nez truffe	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 2
2. 論文標題 Sur une intervention editoriale dans la Relation d'un voyage de Paris en Limousin	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 3
2. 論文標題 Le nez des Pidoux - a propos d'un alexandrin lafontainien	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松村剛	4. 巻 4
2. 論文標題 Deux petites questions d'histoire litteraire : autour d'Henri Pourrat	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glaliceur	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 松村剛
2. 発表標題 Un regionalisme de La Fontaine : chuchillement
3. 学会等名 La Fontaine et la culture europeenne. Au carrefour des Fables (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 松村剛 ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Editions et presses universitaires de Reims	5. 総ページ数 340
3. 書名 La Mythologie de Natale Conti editee par Jean Baudoin Livre I (1627)	

1. 著者名 松村剛 ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Presses Universitaires de Valenciennes	5. 総ページ数 825
3. 書名 Uns clers ait dit que chanson en ferait. Melanges de langue, d'histoire et de litterature offerts a Jean-Charles Herbin	

1. 著者名 松村剛	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Les Belles Lettres	5. 総ページ数 3511
3. 書名 Dictionnaire du francais medieval: deuxieme tirage	

1. 著者名 松村剛 ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kime	5. 総ページ数 324
3. 書名 Balzac et la langue	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------